

特定非営利活動法人日本火山学会
2023 年度通常総会 議事録

開催日時及び開催場所

2023 年 5 月 22 日（月） 12 時 30 分～13 時 30 分

千葉県千葉市 幕張メッセ国際会議場 104 号室（Zoom による中継も実施）

初めに出席数を確認した。定款第 26 条の規定により総会の開会は維持会員の 1/3 以上の出席をもって成立するが、通常総会開催時の維持会員は 280 名であり、定足数は 94 名となる。会場出席者 46 名、委任状提出者 4 名、ウェブサイトのフォームへの記入による表決権行使者 61 名の計 111 名について、会長が出席者と認定し、定足数を満たしていることを確認した。これを受けて、総会の議長である会長が開会を宣言した。

議題 1 2022 年度決算案および 2022 年度決算に対する監査結果

財務委員会から提示された 2022 年度の決算案（別添資料 1）及び監事 2 名による監査結果（別添資料 2）を賛成多数により総会として承認した。

議題 2 2023 年度予算案

財務委員会から 2023 年度の予算案（別添資料 3）が提案され、賛成多数により総会として承認した。

議題 3 議事録署名人の選出

議事録署名人として千葉達朗・高木朗充 両副会長を選任した。

報告事項

- ・庶務委員会から、会員数動向、後援・協賛、プライバシーポリシーの制定について報告した（別添資料 4）。
- ・各賞選考委員会から、学生優秀論文賞の授賞対象論文の変更について報告した（別添資料 5）。
- ・大会委員会から、2023 年度秋季大会などについて報告した（別添資料 6）。
- ・編集委員会から、会誌「火山」の発刊・編集状況について報告した（別添資料 7）。
- ・将来計画委員会から、70 周年記念事業及び学会運営の強化について報告した（別添資料 8）。
- ・広報委員会から、SNS での情報発信、学会ホームページにおける「火山を伝える若い世代」第 4 弾の掲載及び第 5 弾の準備、入会案内ビラの作成について報告した。
- ・事業委員会から、普及啓発活動の一環として、オンラインコンテンツや学会オリジナルグ

ツズの製作予定について報告した。

- ・国際委員会から、国際会議セッション提案奨励事業（学会 ML [火山学会:1739]で案内）について報告した。
- ・学校教育委員会から、地震火山地質こどもサマースクールなどについて報告した（別添資料9）。
- ・火山防災委員会から、JpGU2023 関連セッション、火山防災シンポジウムの主催、災害医療関係者と連携した研究集会の開催、御嶽山噴火 10 年シンポジウムに向けた検討について報告した。
- ・各賞選考委員会から、2023 年度日本火山学会各賞の授賞選考結果（別添資料 10）が理事会で承認されたことを報告した。

以上、予定した審議事項を全て審議し議決したことを確認し、会長が閉会を宣言した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2023 年 5 月 31 日

議長 藤田英輔

議事録署名人 高木朗充 千葉達朗

資料1

2022 年度決算案

特定非営利活動に係る事業会計（単位：円）

2022 年 4 月 1 日から

2023 年 3 月 31 日

勘定科目	予算額	決算額	増減
《経常収入の部》			
会費収入	8,179,000	8,503,000	324,000
寄付金収入	0	0	0
補助金等収入	300,000	685,000	385,000
事業収入	5,270,000	3,310,000	-1,960,000
その他収入	150,200	216,006	65,806
経常収入合計	15,313,200	14,708,864	-604,336
《経常支出の部》			
【事業費】			
火山学に関する定期大会等の開催費	6,055,000	2,781,036	-3,273,964
会誌機関紙研究報告書等発行費	5,220,000	4,830,665	-389,335
公開講座講演会等開催費	1,450,000	494,049	-955,951
火山学の普及啓発に関する事業費	1,038,000	101,832	-936,168
火山学に関する研究奨励表彰費	500,000	44,777	-455,223
助成金支出	700,000	635,894	-64,106
期首・期末棚卸	0	-65,017	-65,017
【事業費】合計	14,963,000	8,823,236	-6,139,764
【管理費】合計	7,665,231	7,209,648	-455,583
【経常支出】合計	22,628,231	16,032,884	-6,595,347
当期経常増減額	-7,315,031	-1,324,020	5,991,011
固定資産額		21,424,682	
期末棚卸額		1,228,093	
前払費用		2,839	
前期繰越収支差額		10,049,613	
次期繰越収支差額		8,685,807	-1,363,806

資料 2

2022 年度決算に対する監査結果

監 査 報 告

特定非営利活動法人日本火山学会定款第 6 章第 4 9 条により、
2022 年度の事業・会計収支状況、預金・為替等の帳簿を監査した結
果、適正に執行されていることを認めます。

2023 年 5 月 1 日

特定非営利活動法人日本火山学会 会計監事

風早康平 

武尾 実 

資料3

2023 年度予算案

非特定営利活動に係る事業会計（単位：円）

2023 年 4 月 1 日から
2024 年 3 月 31 日まで

勘定科目	前年度決算額	予算額	予算額差異
【経常収入】			
会費収入	8,503,000	8,502,000	-1,000
寄付金収入	0	0	0
補助金等収入	685,000	1,100,000	415,000
経常収入			
事業収入	5,304,858	6,684,000	1,379,142
その他収入	216,006	150,200	-65,806
【経常収入】 合計	14,708,864	16,436,200	1,727,336
【経常支出】			
火山学に関する定期大会等の開催費	2,781,036	5,490,000	2,708,964
会誌機関紙研究報告書等発行費	4,830,665	5,220,000	389,335
公開講座講演会等開催費	494,049	1,280,000	785,951
火山学の普及啓発に関する事業費	101,832	1,092,000	990,168
火山学に関する研究奨励表彰費	44,777	500,000	455,223
助成金支出	635,894	700,000	64,106
期首・期末棚卸	-65,017	0	65,017
事業費 計	8,823,236	14,282,000	5,458,764
管理費	7,209,648	8,675,269	1,465,621
【経常支出】 合計	16,032,884	22,957,269	6,924,385
当期経常増減額	-1,324,020	-6,521,069	-5,197,049
固定資産額	21,424,682	21,405,129	-19,553
期末棚卸額	1,228,093	1,228,093	0
前払費用	2,839	2,839	0
前期繰越収支差額	10,049,613	8,685,807	-1,363,806
次期繰越収支差額	8,685,807	3,508,311	-5,177,496

資料4

会員動向等（2023年5月17日時点）

	維持会員	学会会員	一般会員	計
2022年度臨時総会時（個人）・合計	272	683	97	1,052
2022年度臨時総会時（団体）・合計	2	0	18	20
名誉会員	10	0	0	10
2022年度臨時総会時・合計	284	683	115	1,082
2022年度臨時総会后・入会（個人）	0	4	2	6
2022年度臨時総会后・会員種別変更（個人）	1	0	-1	0
2022年度退会（個人）	5	20	2	27
2022年度・学生会員期間満了退会（個人）	1	29	3	33
2023年度・入会・承認済（個人）	1	6	2	9
2023年度・会員種別変更（個人）	1	-1	0	0
2023年度・会員種別変更（団体）	-1	0	1	0
2023年度通常総会時（個人）・合計	269	643	95	1,007
2023年度通常総会時（団体）・合計	1	0	19	20
名誉会員	10	0	0	10
2023年度通常総会時・合計	280	643	114	1,037

2023年度除名対象 6名（維持会員1名、学会会員2名、一般会員3名）

5月に警告書を発送し、8月末までに会費支払や継続希望の連絡がない場合、除名。

後援・協賛

【協賛金・負担金を支出するもの】：3件

地震火山地質こどもサマースクール、地学オリンピック、EPS分担金

【協賛金・負担金が発生しないもの】：2件

- ・後援 シンポジウム「天変地異の時代～火山列島に生きる～」：（公財）藤原ナチュラルヒストリー振興財団
- ・後援 平成20年岩手・宮城内陸地震15年震災復興祈念シンポジウム：栗駒山麓ジオパーク推進協議会

プライバシーポリシーの制定について

2019年5月30日の改正個人情報保護法の施行に伴い個人情報保護法の適用範囲が拡大し、営利か非営利かを問わず個人情報を扱う全ての事業者が法の対象となりました。また、2022年4月の改正に伴い、扱う個人情報の利用目的の明確化や保有個人データの取り扱いに関する請求対応の義務化が盛り込まれました。

火山学会では会員の個人情報を扱っており、また会員名簿の電子化・公開に向けた準備が進められているため、プライバシーポリシーについて理事会で審議を行い、制定と公開が決定されました。総会後に学会HPに掲載を行います。

資料5

学生優秀論文賞の授賞対象論文の変更について

表彰規程6項に定められている学生優秀論文賞の授賞対象の変更について、理事会において議論を行い、承認されました。

現行

6. 日本火山学会学生優秀論文賞の授賞対象は当該年の前3年間に発表された学生が筆頭著者の論文とする。また、本論文賞を受賞できるのは1回限りとする。

変更後（下線部を変更）

6. 日本火山学会学生優秀論文賞の授賞対象は当該年の前3年間に受理された学生が筆頭著者の論文とする。また、本論文賞を受賞できるのは1回限りとする。

資料6

2023 年度秋季大会について

2023 年 4 月 7 日から 21 日にかけて実施した会員アンケートをふまえ、2023 年度秋季大会を以下のように実施する。

学術講演会

口頭発表（ハイブリッド形式）：10 月 18 日（水）から 20 日（金）

かごしま県民交流センター 大ホール・中ホール

ポスター発表（対面形式）：10 月 18 日（水）、19 日（木）にコアタイム予定

かごしま県民交流センター ギャラリー1, 2, 3

予稿サイトは 8 月初旬オープン、予稿締め切りは 9 月 7 日午後 4 時の予定

交流会

鹿児島市内で対面のみで実施予定。

一般公開行事

親子実験：10 月 21 日（土） 公開講座：10 月 29 日（日）

現地討論会

10 月 21 日（土）に桜島で実施予定

参加費

社会人 10,000 円、学生 3,000 円、シニア 3,000 円、非会員 15,000 円

… 昨年度と同様（口頭発表のハイブリッド実施等のため）

託児サービスについて

学術大会期間中に会場（かごしま県民ホール）内にて託児サービスを行う。

託児サービスの利用料は 1 名 1 日あたり 1,000 円とし、不足分は大会参加者全員の参加費で平等に負担することにする。

資料7

会誌「火山」発刊・編集状況について

「火山」発刊状況

【68巻2号】 2023年6月末発行 合計10編

巻頭言、論説2編、寄書3編、解説・紹介3編、書評1編

【68巻3号】 2023年9月末発行 合計6編

論説1編、寄書1編：受理済

査読編集状況

【現在査読編集中の通常論文原稿】 計6編

論説4編、寄書1編、解説・紹介1編

【現在査読編集中の特集号（次世代研究者）原稿】 解説・紹介2編.

資料 8

○ 70周年記念事業について

2026年に日本火山学会が70周年を迎えるにあたり、今後のより円滑な火山研究のため、火山の学術研究とわが国の火山学会を取り巻くこれまでの10年を振り返り、以下について取り組むことについて、2023年度第3回理事会で了承された。

・火山学会誌特集号（特集記事）

網羅的なレビューを行うのではなく、近年の火山研究の中で、とくに学術的進捗のあった分野について、レビュー論文を取りまとめる。方針や内容の検討は編集委員会で行う。

・報告書

60周年記念事業報告書*では、火山学をとりまく3つの項目について、多くの労力をかけて膨大な報告書を作成した。70周年では、その3つの視点も踏まえたうえで、その後の10年の動向を振り返り、現在のわが国の火山学の取り巻く状況について、簡潔にとりまとめを行う。

* 60周年記念事業報告書の項目

WG1：学術のレビューと今後の方向性 WG2：日本火山学会の社会的活動

WG3：専門家育成とキャリアパス

・体制

火山学会の若手研究者を中心とした構成でWGを設置し、学会の関連委員会と連携しながら進め方等を検討したうえで、以上の達成のための取り組みを行う。

○ 学会運営の強化について

会員数の拡大と魅力的なサービスの提供は表裏一体である。火山学会は学術団体であるので、学会員としてのメリットを感じる学術コンテンツをより充実させる必要がある。一方、現在の財政状態は必ずしも健全な状態とは言えず、運営基盤の強化が求められる。

火山学会として、今後これらの解決に向け、可能なものはデジタル化を図る等して解決を図る。とりわけ、編集委員会、事業委員会、及び広報委員会においては、その所掌について、関係委員会間の連携も行い、対応可能な方策を検討する。また、必要に応じて、委員会の体制の強化を図る。

・学会誌の品質の向上と将来的な完全電子化移行等の検討（編集委員会）

・遠隔機能を用いた学術コンテンツの提供等（事業委員会）

・SNS等を用いた学術及び情報の積極的な発信等（広報委員会）

等。

資料9

○ 地震火山地質こどもサマースクールについて

・2023 年度の準備状況

関東地震 100 年の今年度は、ひらつか防災まちづくりの会が現地取りまとめ役となり、神奈川県平塚市周辺にて 8 月 17 日（木）～18 日（金）で実施予定（地震学会が主担当）。

・2024 年度以降の予定

2024 年度は徳島県三好市周辺（地質学会が主担当予定）。

2025 年度は御嶽山をテーマとして長野県木曾町周辺（火山学会が主担当）で開催予定。

○ 2023 年度秋季大会の公開講座科研費について

鹿児島大会での公開講座科研費（研究 成果公開促進費（研究成果公開発表(B)））は「一般講演会」に絞って申請し、無事採択された。

○ 火山実験交流会の実施報告

3 月 5 日に板橋区立教育科学館において「全国火山実験研究交流会」を開催した（主催：板橋区立教育科学館・日本火山学会、共催：富士山科学研究所）。参加者は延べ 162 名。

資料 10

2023 年度日本火山学会各賞の授賞選考結果について

各賞選考委員会から提案された日本火山学会各賞の授賞候補者について、2023 年度第 1 回理事会において以下の通り承認した。

■日本火山学会賞

●小山真人（静岡大学防災総合センター）

「伊豆弧北部の火山およびテクトニクスの研究と日本の火山文化形成に対する顕著な貢献」

■日本火山学普及啓発賞 応募無し

■日本火山学会優秀学術賞

●角皆 潤（名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻）

「火山ガス安定同位体組成観測手法の革新」

■日本火山学会研究奨励賞

●廣瀬 郁（防災科学技術研究所、現在 東北大学理学研究科）

「地震波干渉法に基づく国内50 火山のリアルタイムモニタリングシステムの開発と運用」

●Chris E. Conway（産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門）

「火山地質とマグマ形成・進化過程の統合的研究による火山活動推移の解明」

Study of the temporal evolution of volcanic system based on the combined analysis of geology and petrogenesis

■日本火山学会学生優秀論文賞

●松永康生（東京工業大学理学院火山流体研究センター、現在 東京大学地震研究所）

Yasuo Matsunaga, Wataru Kanda, Takao Koyama, Shinichi Takakura, and Tatsuji Nishizawa (2022) Large-scale magmatic-hydrothermal system of Kusatsu-Shirane Volcano, Japan, revealed by broadband magnetotellurics.

Journal of Volcanology and Geothermal Research, 429, 107600,

doi:10.1016/j.jvolgeores.2022.107600.

- 丸石崇史（九州大学大学院理学府地球惑星科学専攻、現在 防災科学研究所）

Takafumi Maruishi and Atsushi Toramaru (2022) Effect of bubble deformation on the coalescence of two ascending bubbles in a viscous liquid.

Physics of Fluids 34, 043302, doi:10.1063/5.0082506.

■日本火山学会論文賞

- 長谷川 健・柴田翔平・小林哲夫・望月伸竜・中川光弘・岸本博志（2021）

北海道東部，摩周火山の7.6ka カルデラ形成噴火過程：地質学・岩石学・古地磁気学的手法による高分解能推移復元とLow aspect ratio ignimbrite (LARI) の認定.

火山, 2021, 66, 3, 187-210, doi:10.18940/kazan.66.3_187.

- Hiroshi Munekane (2021)

Modeling long-term volcanic deformation at Kusatsu-Shirane and Asama volcanoes, Japan, using the GNSS coordinate time series.

Earth Planet and Space, 2021, 73, 192, doi:10.1186/s40623-021-01512-2.